

- ・世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」
- ・子育てステーション烏山発達相談室
- ・子育てステーション桜新町発達相談室

	チェック項目	「げんき」		烏山相談室		桜新町相談室		工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	0	5	0	4	0	・個別療育、グループ療育に対応する部屋を用意している。 ・運動課題ではコンパクトにできる内容を効率よく組み立てている。	・活動に合わせて備品等の配置を工夫するなどスペースの確保に努める。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	1	4	0	5	0	・多動な子どもには1対1で関われる体制等を組んでいる。	・採用難のなかで、安定した組織体制を維持していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16	0	5	0	5	0	・室内には物をなるべく置かず、刺激の少ない環境にしている。	・バリアフリー構造の施設となっているが、利用児が安心して利用できるよう日頃から点検等を心掛けていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	0	4	0	7	0	・幼児期の活動量の多い子供達の目線に立ち、コンセントの位置などの安全性を確保している。	・ケースが続いてしまう場合に、活動後の清掃が困難なときがある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0	4	0	1	2	療育活動中のクールダウンが可能となる空間および時間の確保を心掛けている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13	0	4	0	6	0	・事業計画や業務目標を主任会で議論し職員で共有しながら策定している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	5	0	6	0	・評価結果やその対応等については主任会で議論し職員で共有している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	4	0	6	0	・様々な会議や委員会等の取り組みを通じて意見聴取がされている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	0	5	0	7	0	・第三者評価を行い、結果や改善策について職員研修会で共有している。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	0	3	0	4	0	・部外講師および部内の専門職を中心に定期的に研修を行うとともにベテラン職員の暗黙知の共有を図っている。	・ケース対応のため、職員が一斉に参加することは難しい。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16	0	4	0	7	0	・自施設のホームページを中心に区民全体に活動内容や予定を公開している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、療育プラン（支援計画）を作成しているか。	16	0	4	0	7	0	・面談などでこどもの課題や保護者のニーズを確認し、個人の状況に応じた療育プランを作成し、保護者に提案している。	

	チェック項目	「げんき」		烏山相談室		桜新町相談室		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ			
適切な支援の提供	13	支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16	0	5	0	7	0	・受付業務なども担うことでケースに関わっていない職員でも利用者を把握して対応することができる。(相談室)	・利用者数が多いため、療育に携わる職員全体で全てのケースの共有は難しい。
	14	支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16	0	4	0	6	0	・支援計画以外のタイムリーな課題についても療育に組み込んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	0	4	0	5	0		・療育導入前は丁寧に行えているが、途中でフォーマルなアセスメントがないため改善の余地がある。(相談室)
	16	支援計画には、子ども家庭庁のガイドラインの「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	3	0	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	0	2	0	6	0	・療育担当主任が原案を作成し担当職員全員で共有している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	3	1	7	0	・社会的ニーズの高い事柄を興味のあるような部分と組み合わせる努力をしている。 ・個人目標に合わせた段階的なプログラムを設定したり、時季に見合ったイベントを取り入れるなど工夫している。	・療育期間が長いケースでは変化がないように見えるところがあるので再検討していく必要がある。(相談室)
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援計画を作成し、支援が行われているか。	14	0	3	0	7	0	・年齢や季節、また子どもが経験すべき人生上の体験を計画的に積み重ねられるよう支援を行っている。 ・グループでも毎回机上課題を設定しており、それが個別活動となっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	0	4	0	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	0	4	0	6	0	・療育に入っていない職員などにも共有している。(相談室)	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	2	0	7	0		・職員間の共有は密だが記録の作成に時間がかかってしまう。
	23	定期的にもモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	4	0	7	0		・半年に1度程度の見直ししかできていないが、モニタリングは行えている。
	24	(放課後等デイサービス) ガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	14	0	4	0	5	0		
25	(放課後等デイサービス) こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	15	0	4	0	5	0	・活動の内容やゲームの選択などこども同士で話し合う機会を作っている。		

	チェック項目	「げんき」		烏山相談室		桜新町相談室		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	0	3	0	7	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	3	0	7	0		
	28	（児童発達支援） 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	0	4	0	7	0	・保護者の希望により行っている。	
	29	（児童発達支援） 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	4	0	7	0	・必要に応じて連携を行っている。また、就学支援シートの作成もしている。	
	30	（放課後等デイサービス） 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	0	4	0	6	0	・就学支援シートを活用し保護者を通して小学校の先生に生活上の困りごとや対応方法などの共有を図っている。 ・個別の面談で各家庭の話をしっかりと聞き取る機会を作っている。	
	31	（放課後等デイサービス） 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	0	4	0	3	1	・保護者やこどもからの希望があれば必ず実施している。	
	32	（放課後等デイサービス） 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	1	3	0	3	1	・保護者の希望により行っている。	
	33	自立支援協議会等へ積極的に参加しているか。	10	0	2	0	4	0	・ST連絡会など地域の各種の会議等に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	4	0	7	0	・療育中はモニタールームで映像で子供たちの様子を見てもらい、療育終了後はフィードバックの時間を設けて説明している。	・集団療育で保護者が多数の場合に時間がとれないことがある。時間が足りないときは要望に応じて別の日に面談の機会を設定している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	4	0	7	0	・定期的にペアレントトレーニング等の保護者向けの学習会を開催している。	
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	4	0	7	0	・負担金の説明は費用の変更時を含め、丁寧な説明を心掛けている。	
	37	支援計画（療育プラン）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	4	0	7	0	・保護者や当該児には年2回（前期・後期）に分けて作成し、保護者への説明と理解を得て療育を実施している。	
	38	支援計画（療育プラン）を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から計画の同意を得ているか。	15	0	4	0	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	4	0	7	0	・療育案には当該児への支援のみならず家族支援の要素を必須項目としている。	

	チェック項目	「げんき」		烏山相談室		桜新町相談室		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	0	3	0	5	0	・保護者を対象とした茶話会や学習会等を定期的に開催し、フリートークの時間も設けている。	・きょうだい同士の交流は実施していない。 ・周知方法については今後も検討が必要。
	41	こどもや保護者からの苦情や相談、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情等があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	4	0	7	0	・意見をお聞きする場を設けて対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	0	1	1	6	0	・施設内の掲示やホームページで、イベントの案内や自己評価結果などの情報提供を行っている。	・保護者とのやり取りがメールやアプリなど活用していけるとよい。今後の検討課題としたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか	15	0	3	0	7	0	・業務運営上の最重要事項の一つを位置づけ、職員には日常的に意識の徹底を図っている。	・マニュアルが多いのでもう少しシンプル化してほしいと感じる。(相談室)
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	4	0	7	0	・失読症などの児童に対する支援に努めるとともにその保護者に対してもていねいなコミュニケーションを心掛けている。なお、日本語が困難な外国人には翻訳機を用意するなどして意思疎通を図っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	5	0	7	0	・ポケット版のしおりを職員向け、保護者向けにそれぞれ作成し周知に努めている。	・療育の回数が少ないことと利用者数が多いため、利用者が直接参加する訓練の開催が難しい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	5	0	7	0	・職員は、建物内の他の事業者と共同して訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0	4	0	4	1		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	3	1	1	1	・料理の活動時には必ず保護者へアレルギーの確認を行っている。	・食育の時間がほほない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	0	5	0	6	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	0	5	0	7	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16	0	5	0	7	0	・事業所内であったヒヤリハットについて書面にして回覧で職員が確認している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	5	0	6	0	・職員全体で研修会を開催している。	・職員により虐待の見立てについての捉えが異なることがあるため、共通認識が必要である。